

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	社会福祉法人 心友会 しいのみ園 ともほんだ		公表日		R7 年 1月 4日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	1	室内の見える範囲に子どもがいる。見えない部分に職員が居て、何かあると様子を伝えるように心掛けている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	1	プレイルームにいる職員と外側にいる職員が偏らないよう心掛けている。	他害・自傷行為をする利用者様が数名いたり、シフトによって職員が少ないと感じる。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9		外側の部屋からプレイルームにかけて床がスロープになっており段差がない。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	1	毎日の清掃とマットの下など、いき届かない所は月ごとの表があり、週に1度は清掃するように心掛けている。	カーベットの為汚れが目立つ所がある鍵がこどもが明けられる高さになってきている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		個別の部屋はないが、他児童の視線に入らないような落ち着いた空間を保つよう心掛けている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9		児童が楽しめるよう、絵合わせカードや知育遊びを取り入れた。それにより、ある児童が落ち着いてきたことなどをミーティングで話した。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		保護者からの連絡や面談の内容を書面にし共有されている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1		共有する前に意見がまとまっている事を発表していると、皆の前では意見できない状況がある
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		発達障害や強度行動障害を持つ児童に関し研修の機会がある。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	1		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		現場で支援にかかわる職員と児発管で日々の様子を話し合い共有している。	共通理解ができていないと感じる。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	1		共有はされているが、理解が異なる部分が生じる。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	2	活動に製作を取り入れる際、皆で話し合っている。児童の特性に配慮して立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		スヌーズレンやお絵描きなど色々な種類の活動をしている。毎月季節感のある制作活動を提供している。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	1	時間になってバツつかないように、毎昼ミーティングで誰が何を担当するか明確にしている。	報連相がなく連携ができていないと感じることもある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	1	翌日の昼に前日の子ども達の様子を話し共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		児童について、困り行動のきっかけや引き金になるものが無かったか話し合い、議事録に残している。	
	23	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8			
関係機関や保護者との連携	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	1		十分とは言えないかもしれない。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8		遊びたいものがある時、自分で発信できるように遊びのイラストと文字がかかれた絵カードを壁に貼り活用し、自己選択が増えている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		月に1度事業所の会議で普段従業しているスタッフのほぼ全員が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		特別支援学校の担任教諭と会議を行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9		学校が開催する情報交換会に出席している。日々の送迎時も含め保護者と行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	1	アセスメントシートを見るなど、当事業所利用前の児童の様子を知るよう努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7	1		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	1		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		8		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	5		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		送迎時に日々の自宅での様子や園でできるようになったことの報告をするなど、課題を保護者と共有するよう努めている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	5		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		ノートや面談で実施している。		
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8				
39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		連絡ノートに保護者から質問があった際、帰りの送迎で保護者に直接説明する等の機会を作っている。また、電話でも対応している。		

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	3	しいのみ園グループの行事（夏祭り）等を通して保護者間の交流を図っている。	父母の会はない。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7	2	活動カレンダーや保護者向け伝言などお便りを作って連絡袋に入れている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		活動の様子を写真に残す際、保護者から許可の無い児童は写真を撮らない。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		不安定になった時安全を確認できる場所に身を置き、様子を見るが必要以上に声掛けを行わない。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	3	しいのみ園グループの行事（夏祭り）等を通して地域交流を図っている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	1		マニュアルを読むことはあるが、それに繋げて訓練に取り組むことはあまりしていない。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		活動（1ヶ月）の中に数回避難訓練を取り入れている。 年に2回の総合防災訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8	1	てんかんのある児童の情報を共有している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		アレルギーを持っている子には別で用意するなど対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	1		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		他害行為、玩具を危険に使っている時には、細かめに記載し、翌日にはスタッフ間で共有している。 振り返ることで事故防止に繋げている。	内容によっては、確認した上で書くことも必要ではないか。個人に話した方が良い内容もある為、配慮が必要だと思われる。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		法人全体で開催される委員会や研修がある。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		日々のミーティングで状況を共有し、その対応が適切だったか振り返りの場となっている。身体拘束は行っていない。		